

令和2年度学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	名
生徒	名
事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	①社会人基礎力として、基礎学力の向上を図り、学力を確かなものとするために、新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善を図る。 ②学習と部活動を両立させる。	①主体的・対話的な深い学びを実現する授業を取り入れる。 ②学習習慣を確保する。	①・主体的・対話的な深い学びを実現する態度を育成する観点から授業改善を進める。 ・年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・生徒への授業評価アンケートの実施。 ・校外で開催される各種研修会への参加。また、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・授業規律についての共通認識を持ち、徹底を図る。 ②・学習時間、特に家庭学習の時間を確保する。 ・学習室、図書館を積極的に活用する。 ・Classiなども利用した自主学習を奨励する。	①・主体的・対話的な展開の授業を取り入れられたか。 ・『この授業見てみてシート』が出されたか。 ・生徒による授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・校外での学びを自らの授業改善に生かされたか。 ②・授業以外の学習時間が増えたか。 ・時間の使い方、学習方法に工夫が見られたか。	①・コロナ禍での2ヶ月の休業や再開当初の分散授業の中『主体的・対話的な展開の授業』の実施は困難であった。 ・公開授業は、1回の実施となったが『この授業見てみてシート』は出された。 ・校外で開催予定の各種研修会については、コロナ禍の中、会場研修ではなく画像の配信での実施となり、教科で研修として取り上げたもの内容としては充実したものとはならなかった。 ②・学校に来られない期間があったということもあり、生徒のClassiアンケートによると授業以外の学習時間が昨年より増加し、約33.7%であった。	B	①・暫く続くであろうコロナ禍においても、工夫しながら『主体的・対話的な展開の授業』を実施し、深い学びを実現する態度を育成することを考えていく。 ・授業評価アンケートの実施を呼びかけ、授業改善に生かしたい。 ②・昨年に比べ、学習の習慣化は伸びたが、まだまだ低い。生徒が習慣的に学習するような仕掛けが必要である。
2	①遅刻、交通事故件数ともに減少させることができているが、ゼロではない。TPOを意識した言動や行動ができていない生徒が少なからず存在している。自律心と規範意識を高める指導を進める。 ②環境整備を進め生徒の活動意欲を喚起するとともに安心・安全な学校づくりに努める。	①交通ルールの周知徹底と基本的な生活習慣の確立に取り組む。 ②トイレの美化、心身の健康、危機管理に対する意識向上を図る。	①・定期的な立哨指導の他、危険地点での立哨指導の回数を増やす。 ・遅刻、交通事故防止の観点から10分前登校を促す。 ・教員からの積極的な投げかけによって、生徒がTPOを意識した言動、行動について考え、行動する機会を増やしていく。 ②・環境委員会でトイレの美化について本校の課題分析をさせ、その解決方策を検討させる。 ・生徒保健委員会の活動及び学校保健委員会を通じて本校生徒の課題を検討し、健康に対する意識や関心を高める。 ・応急手当講習と防災訓練のつながりを意識する。 ・教職員対象の研修を充実させる。	①・遅刻、交通事故件数の推移 ・指導部による日常の学校生活での観察や、担任、教科担当、部活動顧問との情報共有。 ②・トイレの美化、及び保健課題解決に向けた委員会を開催できたか。 ・応急手当講習と防火防災訓練のつながりを強調する講習内容を担当消防署員等から引き出せたか。	①交通事故件数は前年度から1減の12件であった。日常の声掛け等によってTPOを意識した行動のとれる生徒が少しずつ増えてきている。 ②年度当初の目標を変更し、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた環境整備に専心した。生徒保健委員会による手洗い意識啓発活動、危機管理意識をテーマとした学校保健委員会等を通じて安全安心な生活を維持できた。	B	①新たな立哨指導地点での交通ルール順守の徹底を進めていく。教員による声掛け、講話の他、集会等では映像等を使用して取り組んでいく。 ②新型コロナ対策もその他の環境整備も教職員と生徒が共に考えながら進められるように心がける。
3	①生徒の進路希望先が多岐にわたっているため、計画的・系統的な進路指導を実践し、生徒一人ひとりの自己実現に向けて、適切に指導を行う必要がある。 ②入試改革に伴い多様化する入試制度についての情報収集を行うとともに、新入試に対応できるような資質能力の養成に努める。	①個々の進路実現を踏まえ、多面的に指導に当たる。 ②「学力の3要素」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」に基づいた進路指導を行う。	①・スタディサポートや実力診断テストを各学年で実施し、生徒の進路に対する意欲を高める。 ・classiを活用し、日常の学習活動や実力テスト等の事前学習及び事後学習に役立てる。 ・個々の進路希望に応じて、進路補講や面接・小論文指導を行う。 ②・SD(探究)の時間を活用し、生徒一人ひとりが自己を振り返り主体的に自らの将来について考え、目標を見据えたポートフォリオの作成を促すことで、思考力や表現力を養う。 ・分野別説明会や各種ガイダンスを通して、自らの進路実現に必要な情報を積極的に入手し、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。	①・進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・実力判定・実力診断テストの結果を進路指導に上手く活かされたか。 ・上位私立大学合格者を輩出、4年制大学合格者6割程度、民間就職率100%を実現したか。 ②・年間を通してclassiを有効に活用し、全生徒が積極的にポートフォリオの作成に取り組めたか。	①・進路結果満足度は96% ・コロナ禍のため予定通りの進路行事は実施できなかったが、2学期の代替行事の実施で、進路意識を向上させた。 ・ｽﾀﾃﾞｲサポート、実力診断テストでは、課題配信と、各教科の成績への加味により、生徒のﾍﾞｰｼﾞｮﾝを向上させた。 ・上位大学合格者複数名、4年制大学合格者151名、公務員採用4名、民間就職7名。 ②1学年ではｽﾀﾃﾞｲﾞﾄﾞを活用し自ら考え行動し仲間と意見を共有するなど、主体性・協働性といった資質能力を涵養した。また、classiを活用し各行事や考査等の振り返りを行い、活動記録をまとめることができた。	A	①今年度の進路状況を鑑み、新しい入試制度に対応できるよう正確な情報収集に努めながら、適切な時期に必要な進路行事を実施するとともに、スタディサポートや実力診断テストを活用し、生徒の進路意識の向上を図る。 ②今年度1学年で実施したエナジードを引き続き活用しながら、学力の3要素にある資質能力の養成に努める。また、大学入試におけるeポートフォリオはなくなったが、classi等を活用し、随時振り返りを行い、個々の活動記録を蓄積させておくことで、新選択に役立てる。
4	HPや学校説明会などを活用し、本校の魅力を積極的に発信し、生徒募集に繋げる。	開かれた学校づくりを推進する。	・年5回の学校説明会の実施、また、校外で開催される高校説明会への参加。 ・学校説明会の工夫・改善を図る。 ・学校案内の工夫と改善を進め、HPで情報の発信を頻繁に行う。 ・これまで進めてきた異校種連携を継続して進める。 ・保護者、地域住民の学校行事(公開行事に限る)への参加を促す。 ・埼玉スタジアムとの連携を強化する。	・学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・学校説明会の工夫・改善が図られたか。 ・HPの更新は頻繁に実施できたか。 ・異校種連携は進んだか。 ・保護者などの学校行事への参加者数が増加したか。 ・埼玉スタジアム連携が進展したか。	・コロナ禍において、第1・5回の説明会が実施できず、計3回の実施となった。アンケートによると、説明会により進学意欲が高まった。 ・説明会の新しいスタイルもできた。 ・中学生に対しては、連絡ツールがHPのみということもあり、HPは例年より頻繁に更新できた。 ・学校案内をフルモデルチェンジできた。	A	・学校説明会において、本校の良さを感じてもらえるよう、今後も工夫をしていく。 ・HPの更新は、学校の状況は勿論・部活動の様子も知ってもらえるよう頻繁に行っていく。 ・積極的な情報発信については評価できる。さらに保護者の意見を聞く場を設けてもよいのではないか。埼玉スタジアムも有効活用してほしい。

学校関係者評価	
実施日	令和2年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①・オンライン学習の充実など、再度休校になった際の学習環境整備を進めてほしい。 ・生徒のニーズに応えるためにもアンケートを組織的に実施してほしい。	②・朝学習、家庭学習課題などを進路や学年などの単位で「組織的」に取り組ませることが必要。次年度も重点課題としてほしい。
①日常の声掛けを継続し、交通事故の更なる減少に努めてほしい。埼玉スタジアムでのサッカー部の自転車の整理整頓など、地域での交通マナーは良好。 ②新型コロナ対策は大いに評価できる。新たな業務でますます多忙となる中、教職員も健康に留意してほしい。またコロナ禍の中での委員会活動では、「思いやり」と「やる気」を育成し、「みんなで気を付けて頑張ろう」という意識を持たせてほしい。	
①進路結果満足度96%に指導の成果が出ている。指導の継続をお願いしたい。大学・短大の合格目標については今後「量から質」への変換を目指してほしい。そのためには「受験は団体競技である」ことを意識した「意欲ある学習の核」づくりが有効である。 ②今後もSDの時間を有効活用し、生徒一人ひとりが自己を振り返り主体的に自らの将来について考える姿勢を育成してほしい。	
・生徒募集については、「本校の強みをどのように伸ばし、何が足りないかを明確にし改善する」という根本的な課題について議論が必要と思われる。 ・積極的な情報発信については評価できる。さらに保護者の意見を聞く場を設けてもよいのではないか。埼玉スタジアムも有効活用してほしい。	